

企画展

# 貨幣・天下統一

— 家康がつくったお金のしくみ —



貨幣博物館

日本銀行金融研究所  
CURRENCY MUSEUM



1	2	5	6
	34		7 9
			8

口絵 1 三貨



1	2	3	45
---	---	---	----

口絵 2 初期金貨



1 2 表



1 2 裏



3 4 表



3 4 裏



5 6 表



5 6 裏

口絵3 天正大判



7 8 表



7 8 裏



9 10 表



9 10 裏

11 12 13 表



11 12 13 裏



14 15 表



14 15 裏



1 2 3 表



1 2 3 裏



4 5 6 表



4 5 6 裏



口絵4 慶長大判

7 8 9 表



7 8 9 裏



10 11 12 表



10 11 12 裏





1	2	3	4
			5
			6



7	8	9
---	---	---

口絵 5 初期銀貨





1	2	
	3	4
5	6	
	7	8

口絵6 領国貨幣 (切遣い銀)



1	2			
3	4	5	6	7

口絵7 寛永通宝



口絵8 青ざし (30疋=300文)



口絵9 青ざし (50疋=500文)



口絵10 役者絵 尾上松助

1	2
3	4 5



口絵12 折敷と銀の包紙



画像不掲載



口絵11 オランダ東インド会社の貨幣



画像不掲載

1
2
3

口絵13 貨幣使用の場面



口絵14 貨幣使用の場面



口絵15 佐渡鉱山関係錦絵

## 【口絵】

番号	資料名	関連頁	備考
1-1	三貨 慶長大判	2	IIA エド a1(1)
1-2	三貨 慶長小判	2	IIA エド a2(13)
1-3～4	三貨 慶長一分金	2	IIA エド a3(2)表、(7)裏
1-5	三貨 慶長丁銀	2	IIA エド b1(4)
1-6～8	三貨 慶長豆板銀	2	IIA エド b2(3)、(8)、(20)
1-9	三貨 寛永通宝	2	IIA エド c3-3 イ(41)
2-1	初期金貨 武蔵墨書小判	6, 9	IIA カマ b10(2)
2-2	初期金貨 駿河墨書小判	9	IIA カマ b11(1)
2-3	初期金貨 慶長古鑄小判	9	ニホンIIK14(201)
2-4～5	初期金貨 額一分金	6, 9	IIA カマ b7(5)表、(1)裏
3-1～2	天正大判(菱大判)	5, 8	IIA カマ b3-1(1)、(2)
3-3～10	天正大判(長大判)	8	IIA カマ b3-1(3)、(4)、(5)、(7)、(8)、(9)、(10)、(11)
3-11～15	天正大判(後鑄)	27	IIA カマ b3-1(12)、(13)、(14)、(15)、(16)
3-16	天正大判(切断片)	(8)	IIA カマ b3-2(1)
4-1～4	慶長大判(笹大判)	8	IIA エド a1(1)、(2)、(3)、(4)
4-5～10	慶長大判	8	IIA エド a1(5)、(6)、(7)、(8)、(9)、(10)
4-11～12	慶長大判(明暦判)	27	IIA エド a1(11)、(12)
5-1	初期銀貨 八福丁銀	—	IIA カマ c7(1)
5-2	初期銀貨 大黒くくり袴丁銀	7, 11	IIA カマ c8(1)
5-3	初期銀貨 菊一字丁銀	7, 11	IIA カマ c9(1)
5-4～6	初期銀貨 古豆板銀	11	IIA カマ c10(1)、(2)、(3)
5-7	初期銀貨 御公用銀	7	IIA カマ c2(2)
5-8	初期銀貨 石州文禄御公用銀	12	IIA カマ c3(1)
5-9	初期銀貨 筑前博多御公用銀	12	IIA カマ c4(2)
6-1	領国貨幣(切遣い銀) 出羽窪田銀	6, 12	IIA エド d1(1)
6-2	領国貨幣(切遣い銀) 出羽院内銀	6, 12	IIA エド d1(4)
6-3	領国貨幣(切遣い銀) 出羽野代銀	6, 12	IIA エド d1(6)
6-4	領国貨幣(切遣い銀) 出羽矢羽根銀	6, 13	IIA エド d1(60)
6-5	領国貨幣(切遣い銀) 越後長岡寛字銀	6, 13	IIA エド d1(51)
6-6	領国貨幣(切遣い銀) 佐渡徳通印銀	6, 13	IIA エド d1(17)
6-7	領国貨幣(切遣い銀) 加賀次の字銀	13	IIA エド d1(56)
6-8	領国貨幣(切遣い銀) 豊前小倉平田銀	6, 13	IIA エド d1(64)
7-1	寛永通宝 1636(寛永13)年銭 江戸鑄造銭	15, 17	江戸は浅草橋場と芝の2ヶ所に鑄造所が置かれた。IIA エド C3-3-イ(22)

番号	資料名	関連頁	備考
7-2	寛永通宝 1636(寛永 13)年銭 坂本鑄造銭	15, 17	近江は古代から鑄銭に関する記録があるが未詳である。IIAエドC3-3-ロ(18)
7-3	寛永通宝 1637(寛永 14)年銭 水戸鑄造銭	15, 17	IIAエドC3-4-イ(75)
7-4	寛永通宝 1637(寛永 14)年銭 仙台鑄造銭	15, 17	IIAエドC3-4-ロ(106)
7-5	寛永通宝 1637(寛永 14)年銭 吉田鑄造銭	15, 17	IIAエドC3-4-ハ(28)
7-6	寛永通宝 1637(寛永 14)年銭 松本鑄造銭	15, 17	IIAエドC3-4-ニ(11)
7-7	寛永通宝 1637(寛永 14)年銭 萩鑄造銭	15, 17	IIAエドC3-4-ホ(11)
8	青ざし 30 疋 (300 文)	19	IIAエドc8-2(1)
9	青ざし 50 疋 (500 文)	19	IIAエドc8-3(1)
10	役者絵 尾上松助	(18)	敵討ちに向かう和田しづまに、主君誉田内記が餞別の小判包みを下賜する場面(『伊賀越乗掛合羽』)。X2-207
11-1	オランダ東インド会社貨幣 1 ルピー銀貨	(20)	1766 年発行 蘭インIIbイ1-2-8(2) オランダ東インド会社では商館のある地域などで通用させるため 1640 年代以降、銅貨や銀貨を製造した。オランダ東インド会社の VOC 紋章が入っているものもある。商館のある場所ではオランダ本国の貨幣に加刻した金銀貨や日本から輸出された長崎貿易銭も使われていた。
11-2	オランダ東インド会社貨幣 1 ドイト銅貨	(20)	1783 年発行 蘭インIIbイ1-3-3(1)
11-3	オランダ東インド会社貨幣 1 ドイト銅貨	(20)	ウトレヒト州、1766 年発行 蘭インIIbイ2-2-7(1)
11-4	オランダ東インド会社貨幣 1 ドイト銅貨	(20)	ゼーランド州、1731 年発行 蘭インIIbイ2-3-7(2)
11-5	オランダ東インド会社貨幣 1 ドイト銅貨	(20)	ウエスト・フリージア州、1734 年発行 蘭インIIbイ2-5-7(2)
12	折敷と銀の包紙	(19)	IIAg ザツ6-1
13-1	『江戸名所図屏風』より銭屋の様子	14	江戸時代、出光美術館所蔵
13-2	『歌舞伎図巻』より銭を使う場面	3	17 世紀、徳川美術館所蔵
13-3	『遊楽図屏風』より銭を使う場面	15	17 世紀、徳川美術館所蔵
14	『洛中洛外図屏風』より銭屋・両替商の様子	5, 14	17 世紀、舟木本。東京国立博物館所蔵
15-1	諸国金山ノ図 1860(万延元)年 10 月 初代歌川芳豊	—	左側では坑夫たちが手桶と釣瓶を用いて排水を行っている。坑内を掘り進めると湧水が出てくる。その排水は鉱山において重要な作業であった。IIAFカイ1-30
15-2	諸国名所百景 佐渡金山奥穴の図 1859(安政6)年 11 月 二代歌川広重	—	坑夫は、「釣りともし」という照明具を頼りに、薄暗い坑内で作業に従事した。佐渡鉱山内の梯子は、太さ約 15cm の丸太を二つに割り足を乗せる踏面をつくったもので、「登る梯子は針の山」と言われていた。IIAFカイ1-33
15-3	大日本物産国会 佐渡国金山之図・佐渡金掘之図 1875(明治8)年 三代歌川広重	—	鉱山には主要な坑道である「四ツ留口」のほかに、換気のための「風廻し口」などが設けられていた。坑夫たちは金銀銅の鉱脈を槌とタガネを用いて掘った。IIAFカイ1-31
15-4	金銀山大盛祭礼図 江戸～明治時代 作者不明	—	相川町の総鎮守である善知鳥(うとう)神社の祭礼。右側の赤い太鼓は「鬼太鼓」と呼ばれ、鉱山の大工が鉱石を掘る動作に似せて打った。町々からの山車などの出し物、多数の竿灯を持った人々で祭りは賑わった。X6-1
15-5	六十余州名所図会 佐渡金やま 1853(嘉永6)年 9 月 初代歌川広重	—	坑道の入口は、土石の崩落を防ぐため材木で補強され、坑内の安全と盛況を祈る神が祀られている。入口付近には、鉱石を搬出する吠(かます)という袋を背負った人々などが描かれている。IIAFカイ1-34

※備考に記載がない限り当館所蔵資料